

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	膵癌術後肺転移再発症例に対する外科切除の意義
	研究目的	転移性膵癌のうち、肺転移再発は他の再発形式に比して、予後が良いことが報告されている。転移性膵癌に対する標準治療は、全身化学療法であるが、近年肺転移再発症例に対して外科的切除を行い、長期予後を得た症例報告が散見される。またオリゴ転移（転移個数が2～3個以下）症例では、転移巣に対する外科的切除が予後を延長するとする報告もある。今回我々は膵癌肺転移再発症例に対する外科的切除の意義について検討を行う。
	研究対象者	2013年1月から2021年12月の間に当院で根治切除を行った膵癌患者のうち、肺単独転移を認めた37例を検討対象とした。
	研究期間	西暦 2023 年 9 月 4 日～西暦 2024 年 12 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター研 究責任者	高橋大志
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	消化器外科(肝胆膵)
	共同研究の場合、共同研 究機関および各施設で の研究責任者	なし
試料・情報の利用停止および 情報公開に関する窓口		消化器外科(肝胆膵) 高橋大志 045(520)2222(代表) 利用停止のお申し出は2024年03月31日までにお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります